

パンタナル通信

一般社団法人 南北米福地開発協会 会報

2018年6月1日 177号

世界平和地球村の建設と自然環境の保護

第6回パクー稚魚放流式特集



パラグアイ川にパクーの稚魚を放流する、フランコ前大統領夫妻をはじめとする来賓たち。5月4日

パラグアイ川に新たな十萬匹のパクーを放流

五月四日、レダ基地において、第六回パクー稚魚放流式を挙行しました。その報道を見た人々より、祝意のメッセージが続々と寄せられ、この行事がパラグアイ社会に対し、今までになく大きなインパクトを与えたことが伺えます。私たちが目指す福地開発に向けて、新しい地平を拓く、大きな一歩となりました。以下は、中田欣宏理事長、伊達勝見氏、佐野道准氏の報告をまとめたものです。

パクー稚魚放流式は今年で第六回を数え、この地域での年中行事として次第に定着してきました。放流される稚魚が敵から身を守るためには、できるだけその魚体が大きく成長するのを待つ方が有利です。その上で、ほとんどの淡水魚の活動が低下する冬（六月～八月）の直前にあたる、毎年五月のこの時期に放流をしています。

アスンシオン大学との共同プロジェクトなので、まず大学と打ち合わせて正式に日時を決定し、招待状等を作成しました。大学の獣医学部長、水産学科長、農業牧畜省大臣、副大臣への招待状、さらに環境庁への放流許可申請と長官への招待状など。そして日本の事務局と相談して予算を設定しました。その予算の中で最も比重の大きいのが招待者をレダへ輸送する手段です。今年は、二十人乗りのミリタリー機一機と、五人乗り小型機二機を使うことになりました。今季は長引いた雨で陸上交通が困難でした。そこで近隣住民のために、ミリタリー機がアスンシオンからの来賓をレダで降ろした後、すぐ、レダからオリンポに二往復するという計画を立てました。

オリンポは、昨年、日本の青年奉仕隊が活動したことで、町全体のムードが大きく転換し、私たちに好意的になりました。これを更に確固たるものにしたと考えていたのですが、幸いミリタリーの責任者がその計画を承諾してくれました。しかし、そのためには、アスンシオンの招待客が朝遅くとも六時半までにはアスンシオン空港を発つ必要があります。VIPがそんなに早く空港に集まることのできるだろうか？ またオリンポへの二往復を一時間でやれるだろうか？ そして帰路はその逆の順序。果たしてスムーズに事が運ぶだろうか？ このような不安材料も多くありました。

マスコミ関係では、長い付き合いのあるABC新聞の記者が参加を快諾してくれました。また国会の文化委員長を通して国会付きのテレビクルーが送られることになりました。ともかく渉外面はすべてスムーズで、多くの人がレダに来ることを積極的に希望しました。アスンシオンでは中井氏も、続々と国外から来る人たちの出迎え、ホテルの準備、レダに入る交通手段の確保などで忙しく過ごす中、Tシャツ、バナー、記念品等の作成をしてくれました。（二面に続く）



フランコ前大統領夫妻一行と応接室で懇談のひと時。



乗客定員20人のミリタリー機。来賓の輸送に貢献した。



チャコ開発に着手した文先生に謝意を表すフランコ氏。



中田欣宏理事長と中田実所長。フランコ夫妻の家族とともに。



放流式典に参加した人々。セミナーハウス大講堂。



裏方で大活躍した青年たちが、舞台の上で♪Country Road♪

(一面より続く) さて、準備を整えレダに入ると、青年たちが大勢いて、驚くほどの活気に満ちていました。彼らは毎日、各所の掃除、草刈り、ペンキ塗りなど、基地の整備に大活躍していました。また中井夫人は当日の昼食会のため、一週間前からレダに入り、食材、食器の点検などの準備をしてくれました。

五月二日には中田理事長、日本活魚の二人、アルゼンチンの日系移民の人、計四人が到着。翌三日はミリタリーの定期便でマグノ教授、奈田氏、紅谷氏が到着し、雰囲気が一層高まって行きました。

五月四日、放流式当日、天候の心配もあったのですが、時と共に雨雲が去り、すべて好ましい環境の中で進行しました。飛行機が何度も離発着するので、直前までトラクターで滑走路に水を撒き、土を固め、安全には万全を期しました。来賓の輸送も、すべて順調でした。ミリタリー機も小型機も予定通り到着。

フランコ前大統領夫妻も、笑顔で降りられ、出迎えた皆と握手されました。その後、VIPと共に応接間で食事されながら、私たちと歓談されました。

式典は九時半過ぎに開始。司会者のエバリスト氏が来賓を紹介した後、カトリック司教の祈禱に始まり、「FEBIN(中南米大陸会長、中田所長(「パラグアイ財団理事長」と続きました。中田所長が「パラグアイは世界平和のモデル国家となることを神様から期待されていて、ここに集まった人たちは、神様が準備したパラグアイの義人たちです」と述べると、会場から大きな拍手が起きました。次いでアスンシオン国立大学の獣医学部長、バイアネグラ市長の挨拶、日本から駆け付けた中田理事長の挨拶、下院議員を代表してデルピラル氏の挨拶、先住民コミュニティ代表の挨拶、日本の国会議員からの祝辞代読、マグノ教授が学術的観点から今回の放流の意義の説明があり、最後にフランコ夫妻が挨拶しました。

フランコ氏は、文先生ご夫妻の名前を上げて感謝の意を表し、チャコ地方の開発を通じてパラグアイが世界に貢献できるということ、そこを太平洋、大西洋につなげる拠点としようという持論を述べられました。エミリア・フランコ夫人(上院議員)は、韓鶴子EFFWD総裁に触れ、世界平和の為に尽力されているこの方と一つになれば、パラグアイも希望的なモデル国家になれると語られました。(三面に続く)



放流を実行するため、岬の先端まで全員が徒歩で移動する。



水槽内のパクーを、大人も子供も興味深く見つめていた。



若者がこんなに大勢いて、年配者たちもリフレッシュ。



オリンポから来たゲストたちと彼らが乗ったミリタリー機。



5月5日発行のabc新聞1面記事。



5月5日発行のabc新聞1面記事。



テレビ取材を受けるマグノ教授。



感動的な演奏だった、リコーダーとギター。

（二面より続く）すばらしいエンターテインメントもありました。山口さんの奏でるリコーダーとギターの伴奏による「コンドルは飛んで行く」は、会場をすっかり魅了してしまふほどのハイレベルな演奏。続いて青年全員が壇上で力強く「ソーラン節」を踊り、「カントリロード」を歌いました。いずれも見ごたえ、聴きごたえのあるもので、参加者たちの心に新鮮な感動を与えたと思います。

その後、全員が歩いてパラグアイ川の放流現場に移動しました。マグノ教授がパクー稚魚放流の経緯と意義を説明し、来賓たちが袋やバケツに入ったパクーの稚魚を次々と放流しました。初めて魚を放流をする人も多く、どなたも楽しそうに放流していたのが印象的でした。ここで、マグノ教授はテレビクルーの取材を受けました。

放流後、パンタナール研究所まで歩き、孵化場を見学しました。また小橋さんが開発したパクーの魚肉加工食品やタロイモ料理を試食してもらうと、皆さん、満足そうにはお張っていました。特にエミリア夫人は、健康食としてパクーの食材に強い関心を持って製品を買って行かれました。その後、エビの養殖研究のテントに案内し、中田所長が説明をする、この新しいプロジェクトに強い関心を示し、真剣な眼差しで見入っていました。中でもマグノ教授は、自分が運んだ稚エビの成長の速さにとっても感動し、大学でエビの餌の研究をする、と話していました。

近隣地域からの参加者についても特筆すべきでしょう。オリンポ市からは主要な市会議員たちと、学校の長が全員が参加しました。バイアネグラ市の市長も初めて参加しました。すべての先住民コミュニティの代表も参加しました。こうしてこの地域全体に神様の祝福が降り注ぎ始めたように思います。

これまで成された六回の放流式は、首都アスンシオンや地元チャコの人々が、レダのプロジェクトと触れる唯一の機会でした。こんな辺鄙なところで日本人が地道な努力をして、様々なプロジェクトに挑戦し、近隣の村々に貢献しているという事実が、訪問者たちにはもとより、多くの人々に感銘を与えてきました。その輪が次第に広がって、今は多くの人が訪れてみたいというレダの地になっています。

ご支援をくださった皆様方、尽力された関係者の皆様方、現地スタッフと青年たちに感謝いたします。

★第十七回パンタナール一日特別研修会(案内)★

夏の一日特別研修会(ワンデイセミナー)を、左記の要領で開催します。住み慣れた日本から赤道を超えて、両半球視点で人類と地球の未来を考えてみませんか? 若者は夏休みを迎え、価値あるライフワークを構想するための資料を探してみましよう。なお、会場がセンター棟(写真左)に変わりました。

日時 七月二十一日(土) 十時受付、五時終了予定

会場 国立オリンピック記念青少年総合センター、センター棟四階四〇二室(小田急線参宮橋駅徒歩七分または渋谷駅西口40番乗場バス代々木五丁目下車)

参加費 二〇〇〇円(昼食を含む) 当日受付にて

参加を希望される方は、応募用紙に必要事項をご記入の上、ファックスまたはメールで、下記の当法人事務局宛てお申し込みください。(応募用紙の請求も)

主催 一般社団法人 南北米福地開発協会

共催 NPO法人 地球の緑を守る会



オリンピック記念青少年総合センター (同ウェブサイトより)



第16回の野外講義。4月14日

プログラム(予定)

- 「レバランド・ムーンの思想とレダ開発」講師…柴沼邦彦(当法人理事)
- 「レダと日本における植樹活動」講師…高津啓洋(NPO法人地球の緑を守る会代表理事)
- レポーター 第六回パナミヤ放流式の報告、レダを体験した青年の報告、他。

★前回参加者の感想文(抜粋)(四月十四日実施)

- レダ開拓について耳にすることはよくありますが、レダに対する文先生の思い、十八年以上歩んでこられた先輩方の献身的な歩み、今後歩む方向など、盛りだくさんで、とても良かったです。特に印象に残ったのが柴沼先生の講話で、文先生の思想や精神を感じることができました。(31歳女性) ●レダ開拓の思想と活動内容がよく分りました。また植樹活動の本当の意味が分りましたので、今後は自分自身が活動していかなくてはと思いました。青年が頑張っていることを知り、希望を感じました。(53歳男性)
- パンタナールのことを知ることが出来て良かったです。何事をも拒否せずに消化してしまうパンタナール精神で、先輩の方々が続けてきたことが、これからどんな発展していくのだと思います。(23歳女性)
- 一人一人の知られざる努力の一步一步が繋がって、歴史が動かされていくことを知りました。文先生ご夫妻との約束を一度に思っ、情熱的に歩む先輩の方々の姿はまさに孝情の姿だなと感じ、私もそのような姿勢を持つていきたいと思いました。(29歳女性)
- レダは何が何でも発展させなければならぬ意味のある場所ですので、多くの人々に知ってほしいと思います。私もできる限りの支援をしていきたいと思っています。(53歳男性) ●柴沼先生の話はいつ聞いても新鮮ですね。文先生の思想がレダの地に息づいているのだと思います。三宅君が自然界から実感した、心の確信に至る心情世界を語ってくださり、本当にレダの地は神様の愛する地であると改めて思いました。このワンデイセミナーはいつも固まった心を打ち砕いて下さり、新たな心情的世界を確認する良き機会だと思います。支援者を一人でも多く増やしていきたいです。(女性) ●毎朝三時半に起床して心身を整え、黙々と開発し続けた先輩方の実績の故に私たち若者がパンタナールに行っても歩みやすくなった、と気づいた時、本当に感謝の言葉しか浮かびませんでした。(中略)七十歳前後の先生方と二十歳前後の青年による活動報告を聞いて、率直にすごいと思いました。最後に中田理事長の語られた「家庭を中心とした開発を目指していく」は私にとって、とても心に響きました。(17歳男性)

一般社団法人 南北米福地開発協会 事務局

〒213-0001

神奈川県川崎市高津区

溝口3-11-15

岩崎ビル4F

電話: 044-829-2821

FAX: 044-829-2820

ゆうちょ銀行(旧一般会員会費納入)

記号10280 番号61349751

一般社団法人 南北米福地開発協会

E-メール: office@asd-nsa.com

ホームページ: https://asd-nsa.com

会員種別

◆会員一口1000円/月

◆特別会員一口1万円/月

◆法人会員一口1万円/月

※いずれも口数は申込者が申告

会費は、毎月の引き落とし方式です。

会費振替用口座 ゆうちょ銀行

00290-5-113072

加入者名: シャ) 南北米福地開発協会

入会申し込みと同時に手続きをお願い申し上げます。それが確認でき次第、会員番号を確定し、ご案内いたします。

♥入会申込書は、左記の事務局にお申しつけください。ホームページからも入手できます。

お便り募集



アサギマダラ

読者の皆様からのお便りを募集します。本紙記事へのご感想や提案、皆様個人やご家庭での歩み、あるいはグループや支部での活動と関連写真、イラストなどをお待ちしています。宛て先は、事務局:

office@asd-nsa.com

へお願いします。